

ント発生時の都度対応が主体の現在の連携様式が、今後は、複数継続疾患を持つ高齢者に合わせて、病院→リハ病院→福祉施設→診療所→再び病院または緩和ケアへという「ケアサイクル」を前提とするものへと転換していく(未来医療研究機構 長谷川 敏彦 氏)。

その結果、医療と介護は「連携から統合へ」と向かい、地域的なアライアンス(戦略的提携)を形成するための強いガバナンスが必要とされる。一方、統合されたネットワークには、医療・介護の情報のみならず、患者の生活情報まで含め、多次元の情報が乗せられることになる。したがって、MSWのようなジェネラリストの役割がこれまで以上に重要になる(恵寿総合病院 神野正博 氏)。

包括ケアの担い手は病院や介護事業所だけではない。松戸市医師会では、ケアマネジャーと医師とのやりとりを円滑にするため、診療所ごとに対応可能な曜日、時間帯、連絡手段等を一覧にした「ケアマネタイム」を発行している。また、医師会員が市内の全中学校を訪問して健康問題に関わる講義を行うなど、地域包括ケアに向け取り組みを強化している(あおぞら診療所 川越正平 氏)。

全体を通じて、「連携」の目的・内容の再定義が必要だと感じられた。個々の病院・介護事業所、職能団体等は、自らのあり方を、地域の将来像との関係をふまえて検討すべき段階にある。連携の実務についても、これまでとは違う活動の質が求められることになるであろう。

県内病院関係者と、地域包括ケアセンターや介護施設からもご参加を頂き、学会の趣旨と今回の主題に沿った有意義な学術集会となりました。最後に、円滑な学術集会の開催に尽力して頂いた奈良県西和医療センターの職員の皆さんにこの場を持って感謝の意を表します。

第10回和歌山支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構和歌山病院院長 南方良章



会場風景

2015年1月31日(土)、和歌山県御坊市民文化会館において、第10回和歌山支部学術集会を開催致しました。『協働し創造する地域医療

の未来～和歌山県における地域医療ビジョンを考える～』をメインテーマに、特別講演1題、ランチョンセミナー1題、一般演題60題(口演26題、ポスター34題)、シンポジウムの発表が行われました。

特別講演では、元ロンドンオリンピック女子体操競技主将の田中理恵 氏と、3人のお子様を五輪選手に育てられたご尊父の田中章二 氏をお招きして「スポーツが持つ可能性」をテーマに楽しくも有意義な座談会をおこないました。選手を中心に指導者・メンタル専門家・ドクター等多職種の協力が不可欠とのことで、まさに「協働し創造する」医療の現場に通じるものを学ぶことができました。

シンポジウムでは、「和歌山県における地域医療ビジョンを考える」をテーマに、行政・教育・医療・介護それぞれの代表する先生方により、現場の問題点と今後あるべき医療の姿について熱のこもった議論が交わされました。

多くの皆様のご協力のおかげで、人口25,000人の御坊市での開催にもかかわらず、当日参加者数295名を数え、盛会で有意義な会とすることができました。関係各位には心より御礼申し上げ、開催のご報告とさせていただきます。

第15回長崎支部学術集会

学術集会会長：社会医療法人財団白十字会

佐世保中央病院病院長 碓 秀樹

2015年2月14日(土)、長崎県佐世保市アルカスSASEBOにおいて第15回長崎支部学術集会を開催し、251名の方が参加されました。「どうなる どうする

支部学術集会

開催報告

第10回奈良支部学術集会

学術集会会長：地方独立行政法人奈良県立病院機構

奈良県西和医療センター院長 川口 正一郎

日本医療マネジメント学会第10回奈良支部学術集会を、2015年1月31日(土)、“なら100年会館”で「ITは患者に恩恵をもたらすかー地域包括ケアを見据えてー」という主題で開催し、425名の皆様にご参加頂きました。特別講演では滋慶医療科学大学院大学学長 武田 裕先生による「より質の高い医療のIT化」と、三浦市立病院総病院長 小澤幸弘 先生による「やってるよ、地域包括ケア!!」の2講演を拝聴致しました。5名のパネラーによるパネルディスカッション「地域包括ケアシステムの展開」、ランチョンセミナー2講演、一般講演73演題と充実した内容で、活発な討論が午前9時30分から午後6時30分までの長丁場でなされました。